

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2391200165 | | |
| 法人名 | 株式会社ケア21 | | |
| 事業所名 | グループホームたのしい家鶴里(ユニット①) | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中江二丁目9番17号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年10月8日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200165-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あい福祉アセスメント |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 |
| 訪問調査日 | 令和3年12月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で日々の活動に制限がされている中で、できる活動に着目し、洗濯干し・畳みやモップ掛け等家事参加を中心として各利用者が役割を持ちながら、支え合い生活できる環境づくりを行っている。
また、四季に応じたイベントで楽しみを持つ時間を提供する他、少子高齢化によって問題となっている買い物難民に対して、場所を誘致し地域と連携・協力する体制を築いている。また、移動スーパーについては当利用者も買い物もされ、楽しみの一つとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年目を迎える事業所は3階建て、1階は小規模多機能事業所、2階、3階がグループホームとなっている。閑静な住宅街の中に位置し、近くには公園や小・中学校がある。日々の散歩で季節を感じたり、同事業所の小規模多機能で定期的に行われる「体操教室」や「音楽療法」、さまざまなボランティア行事などに地域の方々も誘い、入居者と共に楽しむなど地域に溶け込んだ環境となっている。しかし、この2年近くに及ぶコロナ禍により、外出や面会、ボランティアの訪問などが規制され、様々な行事の中止を余儀なくされている。そんな中でも、入居者の生活活動に着目した支援方法で生活にメリハリを付けたり、ホーム内で行う行事をより楽しめるような内容とするために職員が一丸となって工夫し実施している。面会も、リモートやベランダ越しの面会などを行い、家族から好評を得ている。また、将来的な買い物難民を想定した移動スーパーも継続している。運営推進会議は書面開催となっているが、会議前後に事業所の運営状況や入居者の様子、提案や要望等、情報の収集を往復させて丁寧な会議を実施し報告している。ウイズコロナを認識したホームの暮らしを模索しながら、職員間で検討を重ねている。穏やかな日差しが差し込む居間ではソファー等でのんびりテレビを觀たり談笑する入居者の穏やかな姿が見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員間で考えた事業所理念をもとに、利用者が笑顔で楽しく安心して生活できるよう日々のコミュニケーションや他職種との連携にて不安を取り除けるよう努めている。 | 事業所理念は事務所やスタッフルームに掲示している。職員会議やミーティングで振り返りを行い職員間で共有し、実践につなげている。理念を記載したポケットカードを携帯している。安心安全な生活を旨とし医療関係や他職種との連携に力を入れている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の一員として公民会に入会しているが、コロナ禍で外出制限があるため、日常的な交流は行えていない。 | 地域の公民会に加入している。回覧板や運営推進会議で地域情報を得ている。コロナ禍にあり外出制限があるため、カフェや音楽療法、体操等全て中止となり以前のような地域交流や行事参加は出来ていない。散歩等で挨拶を交わす程度の交流となっている。 | グループホームとは地域と一緒に暮らすのであり、「コロナと共に」の生活に移行してくることが考えられる。コロナ状況を把握しながら、出来ることからの地域交流を再開されることを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 感染症対策の一環として外部との接触を必要最低限に抑えているため地域の人々に向けて活かすことが出来ていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部関係者を集めての報告が行えない中で、事前に資料を配布した上で意見をいただき、いただいた意見をサービスの向上に役立てている。 | 2か月に1回運営推進会議を実施している。コロナ禍のため事業所外部の推進会議メンバーの出席者はないが、書面での意見交換や課題報告を会議前後に行い運営やサービス向上に活かしている。議事録は家族や包括支援センターに送付している。身体拘束適正化委員会を同時に行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 事業所運営の中で不明な点は市町村関係者に連絡・確認を行っている。また地域包括については、事業所の実情やケアサービスの取り組み内容を定期的にし関係性を築いている。 | 認定申請など必要な業務には市の担当窓口へ直接出向き情報交換している。コロナ禍にあるため主に電話やメールを利用して、事業所の状況やケアの取り組みを説明し疑義照会もして連携に努めている。研修はリモートで行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回開催し、身体拘束に関する正しい理解や取り組みについて話し合いを行う他、社内で身体拘束に関する研修を実施している。 | 年3回の社内研修では自己評価チェックリストを基に問題点を取り上げ話し合ったり、2か月毎の身体拘束適正委員会においても、拘束に対する正しい知識や理解に努め拘束感のない生活環境に努めている。防犯上玄関は施錠している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている | 社内で虐待に関する研修を実施する中で、職員に通報の義務があることを周知し、不適切と感じた時点で報告する体制を築き、虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社内で研修を実施し、必要に応じて成年後見制度を活用し支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や改定時等、十分な説明を行った上で、その都度不明な点がないか尋ねながら対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 電話等で直接いただく意見や要望の他、運営推進会議で意見をいただく機会を設け、運営に反映させている。 | 入居者からは日々のケアを通して思いや要望を聞き、記録して職員間で話し合いケアにつなげている。家族からは、コロナ禍で面会や行事が出来ない中、電話やメール、また、書面での運営推進会議等で意見や要望を聞き、運営に反映させている。毎月発行のホーム便りは家族に安心を届けている。意見箱を設置している。コロナ感染が落ち着いた12月には、感染対策を十分取りながらの面会を再開させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議やフロアミーティングの中で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 管理者は、日常業務の中で折に触れ意見や提案、要望を聞き、月1回のスタッフ会議やフロアミーティング等で話し合う環境を整えている。年1回の人事評価面談でも、職員アンケートや自己評価に基づいて細かく話し合う機会を設け運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に一度職員に対してのアンケート調査を実施し、職場環境や条件の整備に努める他、個々の努力に応じての昇給を絶対評価で行っている。また、キャリア支援制度にて資格取得を推奨しやりがいや向上心を持てるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新入社員等経験が間もない職員に対して、社内での研修を別途設けている他、外部の介護技術研修への参加を進めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍になってから、勉強会や連絡会等が中止となり交流する機会がつかれていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所という環境の大きな変化に対して利用者が不安を抱えられる中で、本人の訴えを傾聴し、対応することで不安を安心に変えられるように支援している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス利用前に家族から要望等を聞きとり、利用者本人の要望も踏まえながら、施設サービス計画を立案している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前訪問時に身体状況等今必要としているものを見極め、福祉用具等サービス開始時から不足なく利用できるよう支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と職員が共に支え合いながら生活できる環境を築くため、できる活動に着目しながら各利用者が役割を持ちながらやりがいや生きがいをもてるように支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍で面会が禁止となる時間が長く続く中でも、ウェブ面会やベランダ越しでの面会を実施し、本人と家族の絆が途切れないように支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | 利用者の活動範囲がコロナ禍で事業所内に限られていることや面会禁止の状況が続いていることもあり困難な状況ではあるが、家族には定期的に連絡をとり関係継続に努めている。 | コロナ禍のため外出の機会は殆どなく、ホーム内での生活を余儀なくされている中で、昭和時代の映像や音楽、家族の写真などを見ながら回想し楽しんでいる。毎週の移動販売車での買い物は馴染みとなっている。年賀状を出す人もあり、職員は手伝うなどの支援をしている。面会も規制もある中でも、状況を確認しながらオンラインやベランダ越しの面会等の工夫で、家族から喜ばれている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の生活スタイルや体調に配慮しながらも出来る限りフロアで過ごしていただき、家事手伝いやレクリエーションを通じて関わりを持ち、支え合えるよう関係づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後に家族側から相談があった際には対応を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の希望や意向に対して、できる限りの支援を行なう他、聞き取ることが困難になってきている場合は今までの生活や性格等を考慮しながら本人の立場に立ってフロアミーティングで検討している。 | 入居者に寄り添った生活の中での会話や表情、行動から思いを把握し、本人の要望や希望を聴くようにしている。得た情報に家族からの情報も加えて、フロア会議や職員会議で話し合い、介護プランに織り込んでいる。意思疎通が困難な場合は本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | サービス開始前の事前訪問時に生活歴や、暮らし方などの把握を行う他、利用後も日々のコミュニケーションの中から事前に聞き出せなかった範囲の内容把握にも努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の生活リズムや身体状況について日々観察を行い、居室で休む時間を設ける等の対応を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々変化する利用者の様子を観察し、出てきた課題に対して職員や他職種、本人、家族の意見要望を踏まえた上で現状に適した介護計画の作成を行っている。 | 日々の暮らしの中で利用者の訴えや行動を観察し家族からの意向も聞き、月1回のフロア会議で話し合っている。3か月に1回のモニタリングではケアマネジャーを中心に検討し、医師や看護師の意見も取り入れ6か月ごとに介護計画を作成している。状態に変化があれば随時見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気付いた点等を介護日誌や申し送りノートにて職員間で情報を共有し、フロアミーティング時に介護計画の見直しについて話し合いを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日常生活動作の変化に応じて福祉用具を利用する他、筋力低下や拘縮予防の為に訪問マッサージの利用を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 公民会の回覧板や広報等から地域の社会資源の把握に努めている。また、毎週金曜日の移動スーパーにて利用者が買い物を楽しんでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的には提携先の往診医の診療を受けられるが、以前からの関りを大切にしたいと希望される場合には外部診療を受けていただけるように対応している。 | 入居時に提携医か、かかりつけ医かの希望を聞いている。現在は入居者全員が提携医の受診となっている。内科の往診が月2回、眼科や歯科の往診も受けられる。訪問看護が週1回あり健康管理に当たっている。医療連携により24時間オンコール体制が取られ、適切な医療が受けられるように支援されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1度の医療連携時に職員が各利用者の状態変化を看護師に報告し、必要に応じて往診医の診療が受けられる体制を築いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には病院側と細目に連絡を取りながら早期退院に向けての調整や退院前には入院先に伺い状態の確認等を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行った上、終末期前には本人・家族の他、往診医等他職種と話し合いの場を設け、方針を共有している。 | 入居時に重度化した場合や終末期について説明し指針を明らかにし、家族の意向を確認した上で同意を得ている。重度化が考えられる場合は早い段階から家族や医療関係者と話し合い、事業所で出来ることを十分説明しながら意向を再確認し方針を共有している。入居者にとって最善の支援が出来るよう努めている。メンタルケアを含む研修を実施している。看取りの実績もある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 社内研修にて救急時の対応について学ぶ機会を設けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策のため消防署と連携してリモートでの図上訓練の実施や図上訓練での学びを実践での避難訓練に活かしている。 | 昼間と夜間を想定した年2回の火災・水害による避難訓練を消防署と連携して、リモートでの図上訓練を取り入れながら実施している。今年度はコロナ禍の為、図上訓練のみとなっている。図上訓練での学びを実践での避難訓練に活かせるよう工夫をしている。備蓄品は食材、飲料水、毛布、カセットコンロ、簡易トイレ、ラジオなどを準備している。非常持出袋も備えている。 | コロナ禍でもあり、図上訓練もある程度仕方がないこともあるが、図上訓練と実際では大きな違いがあることを認識したり、コロナ禍での災害を想定した避難の仕方、事業所として一時避難所のあり方なども関係機関と話し合われておくことを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格を尊重するため、スピーチロックについては定期的に職員間で確認する機会をもち、人格を尊重した言葉かけを行う他、もし自分だったらと置き換えて考えケアを行うことでプライバシーの配慮に努めている。 | 誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけに気を配り、「もし自分だったら・・・」という立場を変えた具体的な接し方を話し合う等、常に相手を思う気持ちで接するように努めている。日常のケアにおいても気づきを大切に職員会議などで話し合い支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 移動スーパーを利用される利用者は自身で商品を選び購入される他、生活の中では個々の状態に応じてオープン・クローズドクエッションを用いて自己決定を促している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れはあるものの、体調や介護拒否があった際には、居室での休む時間を設けたり、時間をずらしてケアを行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 化粧品をしようしておしゃれができるよう支援を行っている他、入浴時の着替えについては利用者に好きな服を選んでいただけるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | コロナ禍になってからは感染症対策のため、利用者と一緒に食事作りを行えてはいないが、テーブル拭きに関しては継続して行っている。 | 食材と献立は外部業者に委託しているが、入居者の希望や要望は業者に伝えている。調理は各フロアで行い、入居者の好みに合うように各フロアで工夫した調理をしている。コロナ禍の為、皆で作る楽しみは行えていないが、テイクアウトで季節の食事など楽しんでいる。テーブルは間隔を取り、職員は喫食を見守っている。片づけなど入居者の保有能力に合わせて継続している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の嚥下状態に配慮しながら、食事形態の変更して提供している。また、水分量を確保するためお茶以外にスポーツ飲料等も利用しながら細目に提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科と連携をとりながら、個々にあった口腔ケアの方法を毎食後に声掛けや介助を行い、清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日々の生活、ケアの中で排泄間隔や排泄前の行動の変化への把握に努め、定期的に声掛けを行い、トイレでの排泄を行っている。 | 排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンや排泄前の行動の変化を把握し、その人にあった声掛けをしようとしている。出来るだけ「トイレでの排泄」に向けた自立支援に努めている。便秘予防では食事内容や身体を動かす機会も設け自然排便に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 地域の牛乳屋から牛乳を届けて頂き、乳製品を摂取していただく他、午前と午後に体操の時間を設け体を動かし自然排便につながる取り組みを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間は基本的に決まてはいるものの、体調不良や拒否が見られた際は、時間をずらしたり翌日に変更する対応をとっている。 | 入浴は週2～3回を基本とし、湯や足ふきは毎回取替え清潔を保っている。好みの湯温や時間でゆっくり入浴している。冬季はヒートショックにも気を配り、脱衣室や浴室など温度差のないよう配慮している。ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯も取り入れている。入浴拒否の方へは声かけや時間、タイミング等を見計らいながら気持ちよく入浴できる様支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 極力日中はフロアでの生活を促しているが、生活習慣や体調に合わせて居室で休む時間を設けている。また心地よく夜間休めるよう定期的に布団干しを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容が変更になった際には職員に周知し、服薬支援を行っている。特に薬が変更・追加となった際は状態変化に努め副作用が強く見られた際は往診医、薬剤師と相談の上中止する対応をとっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 今まで自宅で行ってきた家事を入所後も継続し、洗濯干し・畳みの他、モップ掛け、プランターへの水やり等張り合いの合う生活を行っている他、時には縫物を楽しむ時間も設けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で外出制限があるため、遠出や家族や地域の人々と出かけることは出来ない。近隣の散歩については天候や気温にもよるが、外に出掛け四季に触れる機会を設けている。 | コロナ禍のため外出制限があり、外出の機会は減っている。天気の良い日には近隣の公園の散歩に出かけ四季の移り変わりを感じている。毎週、移動販売車が事業所に来るので、パンや菓子など買う人もいる。最近外出制限も緩和されたので、以前のように季節に応じた行事などを模索している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 移動スーパーにて商品を購入することを楽しみ、にされている利用者に対して、事業所での金銭管理を行いながらもお金を使用できるように対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | リモートにて家族と連絡をとり、家族の関係性が途切れないよう支援を行っている他、年賀状では1年の報告も兼ねて写真のアルバムを作成して送付している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者と一緒に貼り絵等で季節に応じた作品をつくり掲示して室内でも季節感を感じられるようにしている。また、室内の光は昼白色は避け、電化製品等の光に対しても不必要な光は隠して刺激が強くないよう対応している。 | グループホームのある2階と3階の居間は広く、大きな窓からは自然光がさし見晴らしも良い。入居者は自分の席やソファにかけてテレビを観たり談笑したりのんびりくつろいでいる。コロナ感染対策として空気清浄機が4台備え付けられ、空調や照明、臭気なども気配りされ居心地の良い共用空間が保たれている。職員と一緒に作った季節に応じた作品が飾られ季節感が醸し出されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 日々の生活の中で利用者間の関係性を見ながらリビングの席を決めている。また、リビングにソファを設けることで一人や気の合った利用者同士で話し合える場所を設けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 転倒リスクに配慮しながらも、居室内には自宅で使用されていた家具や家族の写真等をお持ちになり、自宅との環境変化が少ない状態で不安が和らぐよう対応している。 | 部屋は大きめのクローゼットが備え付けられ、整理整頓しやすく、転倒や躓きなどに気配りし、安全に過ごしやすいように配慮されている。自宅で使い馴れた家具や小物機など持ち込み、楽しそうな家族の写真や好みのグッズを並べて自分の好みの居心地よい部屋を工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | フロアには手摺や利用者の状態に合わせた洗面台や可動式の浴槽を設置している。また必要に応じて福祉用具を利用し、自立支援に努めている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2391200165 | | |
| 法人名 | 株式会社ケア21 | | |
| 事業所名 | グループホームたのしい家鶴里(ユニット②) | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中区中江二丁目9番17号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年10月8日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200165-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あい福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年12月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で日々の活動に制限がされている中で、できる活動に着目し、洗濯干し・畳みやモップ掛け等家事参加を中心として各利用者が役割を持ちながら、支え合い生活できる環境づくりを行っている。また、四季に応じたイベントで楽しみを持つ時間を提供する他、少子高齢化によって問題となっている買い物難民に対して、場所を誘致し地域と連携・協力する体制を築いている。また、移動スーパーについては当利用者も買い物もされ、楽しみの一つとなっている。

開設8年目を迎える事業所は3階建て、1階は小規模多機能事業所、2階、3階がグループホームとなっている。閑静な住宅街の中に位置し、近くには公園や小・中学校がある。日々の散歩で季節を感じたり、同事業所の小規模多機能で定期的に行われる「体操教室」や「音楽療法」、さまざまなボランティア行事などに地域の方々も誘い、入居者と共に楽しむなど地域に溶け込んだ恵まれた環境となっている。しかし、この2年近くに及ぶコロナ禍により、外出や面会、ボランティアの訪問などが規制され、様々な行事の中止を余儀なくされている。そんな中でも、入居者の生活活動に着目した支援方法で生活にメリハリを付けたり、ホーム内で行う行事をより楽しめるような内容とするために職員が一丸となって工夫し実施している。面会も、リモートやベランダ越しの面会などを行い、家族から好評を得ている。また、将来的な買い物難民を想定した移動スーパーも継続している。運営推進会議は書面開催となっているが、会議前後に事業所の運営状況や入居者の様子、提案や要望等、情報の収集を往復させて丁寧な会議を実施し報告をしている。ウイズコロナを認識したホームの暮らしを模索しながら、職員間で検討を重ねている。穏やかな日差しが差し込む居間でソファ等でのおんびりテレビを観たり談笑する入居者の穏やかな姿が見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員間で考えた事業所理念をもとに、利用者が笑顔で楽しく安心して生活できるよう日々のコミュニケーションや他職種との連携にて不安を取り除けるよう努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の一員として公民会に入会しているが、コロナ禍で外出制限があるため、日常的な交流は行っていない。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 感染症対策の一環として外部との接触を必要最低限に抑えているため地域の人々に向けて活かすことが出来ていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部関係者を集めての報告が行えない中で、事前に資料を配布した上で意見をいただき、いただいた意見をサービスの向上に役立てている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業所運営の中で不明な点は市町村関係者に連絡・確認を行っている。また地域包括については、事業所の実情やケアサービスの取り組み内容を定期的にし関係性を築いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回開催し、身体拘束に関する正しい理解や取り組みについて話し合いを行う他、社内で身体拘束に関する研修を実施している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 社内で虐待に関する研修を実施する中で、職員に通報の義務があることを周知し、不適切と感じた時点で報告する体制を築き、虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社内で研修を実施し、必要に応じて成年後見制度を活用し支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や改定時等、十分な説明を行った上で、その都度不明な点がないか尋ねながら対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 電話等で直接いただく意見や要望の他、運営推進会議で意見をいただく機会を設け、運営に反映させている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議やフロアミーティングの中で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に一度職員に対してのアンケート調査を実施し、職場環境や条件の整備に努める他、個々の努力に応じての昇給を絶対評価で行っている。また、キャリア支援制度にて資格取得を推奨しやりがいや向上心を持てるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新入社員等経験が間もない職員に対して、社内での研修を別途設けている他、外部の介護技術研修への参加を進めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍になってから、勉強会や連絡会等が中止となり交流する機会がつかれていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所という環境の大きな変化に対して利用者が不安を抱えられる中で、本人の訴えを傾聴し、対応することで不安を安心に変えられるように支援している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス利用前に家族から要望等を聞きとり、利用者本人の要望も踏まえながら、施設サービス計画を立案している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前訪問時に身体状況等今必要としているものを見極め、福祉用具等サービス開始時から不足なく利用できるよう支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と職員が共に支え合いながら生活できる環境を築くため、できる活動に着目しながら各利用者が役割を持ちながらやりがいや生きがいをもてるように支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍で面会が禁止となる時間が長く続く中でも、ウェブ面会やベランダ越しでの面会を実施し、本人と家族の絆が途切れないように支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の活動範囲がコロナ禍で事業所内に限られていることや面会禁止の状況が続いていることもあり困難な状況ではあるが、家族には定期的に連絡をとり関係継続に努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の体調に配慮しながらも出来る限りフロアで過ごしていただき、家事手伝いやレクリエーションを通じて関わりを持ち、支え合えるよう関係づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後に家族側から相談があった際には対応を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の希望や意向に対して、できる限りの支援を行なう他、聞き取ることが困難になってきている場合は今までの生活や性格等を考慮しながら本人の立場に立ってフロアミーティングで検討している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | サービス開始前の事前訪問時に生活歴や、暮らし方などの把握を行う他、利用後も日々のコミュニケーションの中から事前に聞き出せなかった範囲の内容把握にも努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の生活リズムや身体状況について日々観察を行い、居室で休む時間を設ける等の対応を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々変化する利用者の様子を観察し、出てきた課題に対して職員や他職種、本人、家族の意見要望を踏まえた上で現状に適した介護計画の作成を行っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気付いた点等を介護日誌や申し送りノートにて職員間で情報を共用し、フロアミーティング時に介護計画の見直しについて話し合いを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日常生活動作の変化に応じて福祉用具を利用する他、筋力低下や拘縮予防の為に訪問マッサージの利用を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 公民会の回覧板や広報等から地域の社会資源の把握に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的には提携先の往診医の診療を受けられるが、以前からの関りを大切にしたいと希望される場合には外部診療を受けていただけるように対応している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1度の医療連携時に職員が各利用者の状態変化を看護師に報告し、必要に応じて往診医の診療を受けられる体制を築いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には病院側と細目に連絡を取りながら早期退院に向けての調整や退院前には入院先に伺い状態の確認等を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行った上、終末期前には本人・家族の他、往診医等他職種と話し合いの場を設け、方針を共有している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 社内研修にて救急時の対応について学ぶ機会を設けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策のため消防署と連携してリモートでの図上訓練の実施や図上訓練での学びを実践での避難訓練に活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格を尊重するため、スピーチロックについては定期的に職員間で確認する機会をもち、人格を尊重した言葉かけを行う他、もし自分だったらと置き換えて考えケアを行うことでプライバシーの配慮に努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 生活の中では個々の状態に応じてオープン・クローズドクエッションを用いて自己決定を促している。また言葉での意思決定が困難な利用者にはポップを使用して視覚から自己決定を促している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れはあるものの、体調や介護拒否があった際には、居室での休む時間を設けたり、時間をずらしてケアを行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 化粧品をしようしておしゃれができるよう支援を行っている他、入浴時の着替えについては利用者に好きな服を選んでいただけるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | コロナ禍になってからは感染症対策のため、利用者と一緒に食事作りを行ってはいないが、テーブル拭きに関しては継続して行っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の嚥下状態に配慮しながら、食事形態の変更や飲料にトロミ剤を使用して提供している。また、水分量を確保するためお茶以外にスポーツ飲料等も利用している。また、飲料での摂取が難しい利用者にはゼリーを作成して提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科と連携をとりながら、個々にあった口腔ケアの方法を毎食後に声掛けや介助を行い、清潔保持に努めている。また夜間義歯消毒で不穩になる利用者は日中に消毒を実施する方法をとっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日々の生活、ケアの中で排泄間隔や排泄前の行動の変化への把握に努め、定期的に声掛けを行い、トイレでの排泄を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 地域の牛乳屋から牛乳を届けて頂き、乳製品を摂取していただく他、午前と午後には体操の時間を設け体を動かし自然排便につながる取り組みを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間は基本的に決まってはいるものの、体調不良や拒否が見られた際は、時間をずらしたり翌日に変更する対応をとっている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 極力日中はフロアでの生活を促しているが、生活習慣や体調に合わせて居室で休む時間を設けている。また心地よく夜間休めるよう定期的に布団干しを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容が変更になった際には職員に周知し、服薬支援を行っている。特に薬が変更・追加になった際は状態変化に努め副作用が強く見られた際は往診医、薬剤師と相談の上中止する対応をとっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 今まで自宅で行ってきた家事を入所後も継続し、洗濯干し・量みの他、掃き掃除等張り合いの合う生活を行っている。また洋裁が得意だった利用者に対してはハサミを使った作業を手伝っていた。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で外出制限があるため、遠出や家族や地域の人々と出かけることは出来ていない。近隣の散歩については天候や気温にもよるが、外に出掛け四季に触れる機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を手元に持っていないと不安になる利用者もみえるため少額ではあるが所持していただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | リモートにて家族と連絡をとり、家族の関係性が途切れないよう支援を行っている他、年賀状では1年の報告も兼ねて写真のアルバムを作成して送付している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者と貼り絵等で季節に応じた作品をつくり掲示して室内でも季節感を感じられるようにしている。また、室内の光は昼白色は避け、電化製品等の光に対しても不必要な光は隠して刺激が強くないよう対応している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 日々の生活の中で利用者間の関係性を見ながらリビングの席を決めている。また、リビングにソファを設けることで一人や気の合った利用者同士で話し合える場所を設けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 転倒リスクに配慮しながらも、居室内には自宅で使用されていた家具や家族の写真等をお持ちになり、自宅との環境変化が少ない状態で不安が和らぐよう対応している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | フロアには手摺や利用者の状態に合わせた洗面台や可動式の浴槽を設置している。また必要に応じて福祉用具の利用やトイレの場所等をポップで案内する等、自立支援に努めている。 | | |